Arcserve[®] Unified Data Protection Cloud Hybrid ユーザガイド

バージョン 1.1

arcserve

リーガルノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve本ドキュメントは、Arcserveが知的財産権を有する機密 情報であり、Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、Arcserveのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対 する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本 システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかな る損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任 を負いません。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様と します。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの 後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2020 Arcserve (その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved.サードパーティの商標または著作 権は各所有者の財産です。

Arcserve サポートへの問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

テクニカルサポートへの問い合わせ

Arcserve サポートの内容

- 弊社のArcserve サポート チームが社内で共有しているのと同じ情報ライブ ラリへ直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース(KB)ド キュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについ て、製品関連KB技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを 見つけることができます。
- 弊社のライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポートチームとすぐにリア ルタイムで会話を始めることができます。 ライブチャットでは、製品にアクセス したまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバルユーザコミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話を行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、 質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、ご使用のArcserve製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

コンテンツ

第1章: Arcserve UDP についての理解 Cloud Hybrid	7
概要	8
機能	11
Cloud Hybrid によって顧客が得られるもの	14
Cloud Hybrid にアクセスするための前提条件	
後方互換性 サポー ト ポリシー	
第2章: バックアップ サービスとしての Cloud Hybrid の使用	21
Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバへのデータのレプリケート	22
共有プランを使用して保護された Windows ノード データをレプリケートする方法	23
共有プランを使用して保護された Linux ノード データをレプリケートする方法	24
Cloud Hybrid からのファイルおよびフォルダのダウンロード/復旧	25
Windows ファイル システムを使 用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロ- する方 法	ード 26
Cloud Hybrid からファイルとフォルダを復旧する方法	27
Microsoft Office 365 データを Cloud Hybrid に保護するプランの作成	
インスタント仮想ディスクを使用してアシュアード リカバリを実行する方法	30
Arcserve UDP Cloud Hybrid からの保護されている Microsoft Office 365 データの 旧	復 32
Microsoft SharePoint Online サイト コレクション データをリストアする方 法	33
Microsoft Office 365 Exchange メールボックス データをリストアする方法	34
Microsoft OneDrive データのリストア方 法	35
第3章: 惨事復旧サービスとしての Cloud Hybrid の使用	37
Linux ファイルシステムを使用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロー する方法	ード 38
仮想スタンバイを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧システムの実行	39
惨事復旧システムで Hyper-V サーバを使用する方法	40
仮 想 スタンバイを使 用して Cloud Hybrid のデータを復 旧 する方 法	41
インスタント VM を使用した Cloud Hybrid での惨事復旧テストの実行	48
Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバを追加する方法	49
Cloud Hybrid インスタント 仮 想 マシンを作 成 する方 法	51
アシュアード リカバリを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧のテストの自動化	68
バックアップ データのアシュアード リカバリを実行する方法	69
アシュアード リカバリ テスト ジョブを手動で実行する方法	73
Cloud Hybrid の惨事復旧システムへの接続	76
惨事復旧システムでネットワーク設定を使用する方法	77

惨事復旧システムの日	/per-V サーバに接続する方法	
サイト間 VPN を使用し	て DRaaS インスタンスにアクセスする大	75
第4章:新しいまたは	と空の復旧ポイント サーバ	へのリバース レプリ 81
シナリオ1およびシナリオ	2を使用して手動で設定する方	法82
シナリオ3およびシナリオ	4を使用して手動で設定する方	法84

第1章: Arcserve UDP についての理解 Cloud Hybrid

Arcserve UDP Cloud Hybrid ドキュメントへようこそ。 このドキュメントでは、 Cloud Hybrid のセットアップ、 アクセス、および使用に関する情報を説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>概要</u>	
<u>機能</u>	11
Cloud Hybrid によって顧客が得られるもの	14
<u>Cloud Hybrid にアクセスするための前提条件</u>	15
後方互換性 サポートポリシー	16

概要

Arcserve UDP Cloud Hybrid は、組織がシームレス統合 クラウド バックアップおよび DR (Disaster Recovery、惨事復旧)を使用してデータ保護ニーズを満たすことが できるようにするクラウド コンピューティング サービスです。 Cloud Hybrid は、重大な システムとデータのオフサイトの可用性を確保する事業継続ソリューションです。

Cloud Hybrid は、Arcserve UDP プラットフォームに対 するサービスの拡張機能として 提供され、データ保護の完全なセキュリティと効率のために、グローバルデデュプリ ケーション、暗号化、圧縮、および WAN 最適化レプリケーションを活用します。

シームレスな統合によって、オンプレミス RPS (Recovery Point Server、復旧ポイント サーバ) または Arcserve UDP アプライアンスが、Cloud Hybrid でデータを管理するた めにデータが自動的にレプリケートされるクラウド RPS に接続されます。

Cloud Hybrid は、以下のサービスの種類で使用できます。

BaaS (Backup as a Service): Cloud Hybrid は、オンプレミス RPS (Recovery) Point Server、復旧ポイントサーバ)から、クラウド内の対応する RPS にバック アップ イメージを自動的 にレプリケートします(ディスクからクラウドのディスク へ)。バックアップソース、デスティネーション、保持期間を指定して、 Arcserve UDP コンソールから、バックアップ プロセス全体を管理できます。



 DRaaS (Disaster Recovery as a Service): Cloud Hybrid は、重要なデータ 資産保護を超え、組織がシームレスな DR (Disaster Recovery、惨事復 旧)を使用したデータ保護戦略を行えるように支援します。このサービス は、Arcserve UDP プラットフォームに対する拡張機能として提供され、グ ローバルデデュプリケーション、暗号化、圧縮、および WAN 最適化レプリ ケーションを活用する次世代ソリューションです。

詳細については、
^{DRaaSの使用}を参照してください。



Arcserve UDP Cloud Hybrid では、ある RP から別の RP にレプリケートし、Cloud Hybrid から手動でデータをレプリケートできます。

詳細については、以下を参照してください。

- RPS から RPS ヘレプリケート
- 手動で Cloud Hybridからのレプリケーション

Arcserve アプライアンスを Cloud Hybrid に接続するだけです。

機能

Arcserve UDP Cloud Hybrid で利用可能な主要な機能の一部を以下に示します。

Cloud Hybrid へのレプリケート: Arcserve UDP を使用すると、オンプレミス復旧ポイントサーバから Cloud Hybrid にバックアップ セッションをレプリケートできます。このプロセスによって、元の復旧ポイントがマージまたは意図 せず削除された場合に、復旧ポイントの追加のコピーが利用できるようにします。

詳細については、「<u>Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバにデータをレプリケートする方法</u>」を参照してください。

Cloud Hybrid からのファイル/フォルダのダウンロード:ファイル/フォルダのダウン ロードは、Windows ファイルシステムの Cloud Hybrid レプリケート済みセッショ ンから利用可能です。サポートされるバックアップの種類は、Windows エー ジェント ベース バックアップ、Windows 仮想マシンのホストベース エージェント レス バックアップ、および UNC パスです。DRaaS 環境では、Linux ファイルシス テムの Cloud Hybrid レプリケート セッションからファイル/フォルダをダウンロード できます。

詳細については、「<u>Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロードする方</u> 法」を参照してください。

 Cloud Hybrid への Office 365 OneDrive のバックアップ: OneDrive は、 Microsoft Cloud にホストされているファイル ストアです。OneDrive プランは、 保護する OneDrive ノードを指定できるバックアップ タスク、バックアップ先、お よびバックアップ スケジュールで構成されます。バックアップ先はバックアップ データを保存する非デデュプリケーション データ ストアまたはデデュプリケーショ ンデータ ストアです。

詳細については、「<u>Microsoft Office 365 OneDrive ノード バックアップ プランを</u> 作成する方法」を参照してください。

注: この機能を有効化するには、Cloud Hybrid に Arcserve UDP 7.0 が必要です。

Cloud Hybrid への Office 365 Exchange Online のバックアップ: Exchange Online は、Microsoft Cloud にホストされている電子メールアプリケーションで す。プランを作成し、Microsoft Cloud からメール、予定表アイテム、連絡先 などの Exchange Online メールアイテムを保護します。Exchange Online のプ ランは、保護する Exchange Online ノードを指定できるバックアップタスク、 バックアップ先、およびバックアップ スケジュールで構成されます。バックアップ 先は、バックアップしたデータが格納されている非デデュプリケーションまたは デデュプリケーション データストアです。 詳細については、「<u>Exchange Online プランを作成する方法</u>」を参照してくだ さい。

Cloud Hybrid への Office 365 SharePoint Online のバックアップ: SharePoint Online は、Microsoft Cloud にホストされているポータル管理アプリケーション です。SharePoint Online プランを作成し、Microsoft Cloud からドキュメント ラ イブラリやリスト ライブラリなどの SharePoint Online リスト アイテムを保護しま す。SharePoint Online プランは、保護する SharePoint Online ノードを指定で きるバックアップ タスク、バックアップ先、およびバックアップ スケジュールで構 成されます。バックアップ先はバックアップ データを保存する非デデュプリケー ション データ ストアまたはデデュプリケーション データ ストアです。

詳細については、「<u>SharePoint Online プランを作成する方法</u>」を参照してく ださい。

アシュアード リカバリ: データのアクセシビリティとアシュアード リカバリを確認するには、アシュアード リカバリ プランを作成します。アシュアード リカバリのプランは、バックアップ/レプリケーション プランに基づいています。この復旧タスクでは、ソース、テスト設定、スケジュール、および詳細設定で構成される既存のバックアップまたはレプリケーション プランに、アシュアード リカバリタスクが追加されます。手動でアシュアード リカバリ ジョブを実行 することもできます。 詳細については、「アシュアード リカバリプランを作成する方法」を参照して

評細については、「<u>アシュアードリカバリフランを作成する方法</u>」を参照して ください。

- Cloud Hybrid でのレポート:
 - ◆ RPO レポート:目標復旧ポイント(RPO)レポートは、復旧ポイントが バックアップ環境でどのように分布しているかを示すコンプライアンスレ ポートです。このレポートは、災害時にノードが戻ることのできる最古 および最新のポイントを評価するのに役立ちます。

詳細については、「<u>RPO レポート」</u>を参照してください。

◆ RTO レポート:目標復旧時間(RTO)レポートは、定義された復旧ポイント目標が実行されるすべてのジョブの復旧ポイントについて満たされているかどうかを示すコンプライアンスレポートです。

詳細については、「RTO レポート」を参照してください。

Cloud Hybrid での仮想スタンバイの使用:仮想スタンバイは復旧ポイントを 指定したクラウド上で仮想マシン形式に変換し、必要に応じて容易にユー ザのデータを回復するためのスナップショットを準備します。この機能は可用 性を向上させる機能であり、ソースマシンでエラーが発生した場合はただち に仮想マシンを確実に引き継ぐこともできます。 詳細については、「<u>仮想スタンバイプランを作成する方法</u>」を参照してください。

Cloud Hybrid でのインスタント VM の使用: インスタント VM (virtual machine、仮想マシン)は、事前に変換することなく仮想マシン内でバックアップセッションを実行し、ハイパーバイザで仮想マシンを作成するのに役立ちます。インスタント仮想マシンによって、Arcserve UDP バックアップセッションで利用可能なデータおよびアプリケーションへのインスタント アクセスが提供されます。インスタント VM では、リストアまたはバックアップセッションの物理マシンまたは仮想マシンへの変換のためのダウンタイムが排除されます。

詳細については、「<u>Hyper-V および VMware ESX サーバ上 でインスタント 仮想</u> マシンを作成および管理する方法」を参照してください。

Cloud Hybrid によって顧客が得られるもの

Cloud Hybrid を使用すると、以下が得られます。

- Arcserve UDP コンソール/RPS サーバ。
- Arcserve UDP コンソールにアクセスするための URL。
- Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインするのに使用されるアカウントのユーザ名とパスワード。オンプレミス Arcserve UDP コンソールで [リモート 管理の RPS へのレプリケート]タスクを追加するときに、同じ認証情報が認証に適用されます。

重要: デフォルトでは、Cloud Hybrid のデデュプリケーション データストアには、リモートで生成された暗号化パスワードが含まれています。Arcserve は デフォルト パスワードをリストアできないため、初めて Cloud Hybrid にログイン するときに暗号化パスワードを変更する必要があります。後でデータストア のインポートやデデュプリケーション データストアでの一貫性チェックの実行な どのタスクを実行するのにパスワードが必要なため、新しく作成したパスワー ドを安全に保つことをお勧めします。データストアが Cloud Hybrid から削除 されていない場合、後でデータストア設定から新しく作成したパスワードを 変更できます。

- オプションの Cloud Hybrid Compute サブスクリプションを購入した場合は Hyper-Vノード。
- Hyper-V で実行される事前設定された Linux バックアップサーバ。

Cloud Hybrid にアクセスするための前提条件

Cloud Hybrid にアクセスする前に、以下の前提条件を確認してください。

- Arcserve UDP ソフトウェアまたはアプライアンスがあること。
- オンプレミスの Arcserve UDP ソフトウェアまたはアプライアンスのアクティブなメンテナンス契約があること。
- Cloud Hybrid にアクセスするための以下の詳細を含む電子メールをArcserve サポートから受信していること。
 - ◆ Arcserve UDP コンソールへの URL
 - ◆ ホスト名(ノード名)
 - ◆ Cloud Hybrid のユーザ名とパスワード
- オプションの Cloud Hybrid Compute サブスクリプションを購入した場合、以下の詳細が提供されます。
 - ◆ Linux バックアップ サーバおよびポイント 対 サイト VPN アクセスの root ア カウントのパスワード(Cloud Hybrid パスワードと同じ)
 - ・ポイント対サイト VPN の一意の設定ファイル

後方互換性サポート ポリシー

以下の表は、6.5 Update 4 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

	1		
		Cloud	Cloud
	Cloud	Hybrid	Hybrid
	Hybrid	(Arcserve	(Arcserve
	(Arcserve	UDP 6.5	UDP 6.5
	UDP 6.5	Update 4)	Update 4)
オンプレミス バージョン	Update 4)	からオンプ	からオンプ
	でサポート	レミスへの	レミスへの
	されている	手動リ	手動リバー
	レプリケー	バースレプ	スレプリ
	ション	リケーショ	ケーションの
		シー	要件
			パッチ
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	0	P00001738
			の適用
			パッチ
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	0	P00001738
			の適用
			パッチ
Arcserve UDP 7.0	0	0	P00001738
			の適用
Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	0	-
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	0	-
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	0	-
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	0	-
Arcserve UDP 6.5	0	0	-
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	x	x	-

以下の表は、7.0 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

		Cloud	Cloud
		Hybrid	Hybrid
		(Arcserve	(Arcserve
オンプレミス バージョン	(Arcserve ODP	UDP 7.0)	UDP 7.0)
<i>AJJU</i> EA <i>N</i> – <i>J</i> = <i>J</i>	イリスレプリケーショ	でサポート	Hybrid (Arcserve UDP 7.0) からオンプ レミスへの 手動リ ズースレ
		されている	
		レプリケー	手動リ
		ションの要	バースレ

		件	プリケー ション
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	-	0
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	-	0
Arcserve UDP 7.0	0	-	0
Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	パッ チ P00001738 の適用	ο
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	6.5 Update	х
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	41-史初 してから	х
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	パッチ	х
Arcserve UDP 6.5	ο	<u>を適用</u>	х
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	x	-	х

重要: Arcserve UDP コンソールのバージョンが Cloud Hybrid のバージョン以上であ るかどうかを確認します。たとえば、Cloud Hybrid のバージョンが 7.0 であるにもかか わらず、コンソールのバージョンが 6.5 の場合、プランを作成したり、既存のプランを 変更したりして、オンプレミス上のリモート管理の RPS へのレプリケート タスクを追 加または変更すると、エラーメッセージが表示されます。次のメッセージが表示さ れます: コンソールのバージョンが古くなっています。コンソールをアップグレードして やり直してください。

プランを保存するには、v6.5 Update 4 のオンプレミスコンソールでパッチ P00001738 を適用します。

以下の表は、7.0 Update 1 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

オンプレミス バージョン	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 1) で リポー トされているレプリ ケーション	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 1) でサポート されている レプリケー ションの要 件	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 1)からオ ンプレミス への手動 リバース レプリケー ション
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	-	0
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	-	0
Arcserve UDP 7.0	0	-	0

Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	パッ チ P00001738 の適用	0
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	6.5 Update	х
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	41-史初 してから	х
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	パッチ	х
Arcserve UDP 6.5	0	<u>F00001738</u> を適用	х
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	х	-	х

重要: Arcserve UDP コンソールのバージョンが Cloud Hybrid のバージョン以上であ るかどうかを確認します。たとえば、Cloud Hybrid のバージョンが 7.0 Update 1 で も、コンソールのバージョンが 6.5 である場合、プランの作成や既存のプランの変更 を行って、オンプレミスでリモートで管理された RPS へのレプリケート タスクを追加ま たは変更すると、エラーメッセージが表示されます。次のメッセージが表示されま す: コンソールのバージョンが古くなっています。コンソールをアップグレードしてやり 直してください。

プランを保存するには、v6.5 Update 4 のオンプレミスコンソールにパッチ P00001738 を適用します。

以下の表は、7.0 Update 2 での Cloud Hybrid レプリケーションでサポートされている Arcserve UDP のバージョンを示しています。

オンプレミス バージョン	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 2) で リポ ー トされているレプリ ケーション	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 2) でサポート されている レプリケー ションの要 件	Cloud Hybrid (Arcserve UDP 7.0 Update 2)からオ ンプレミス への手動 リバース レプリケー ション
Arcserve UDP 7.0 Update 2	0	-	0
Arcserve UDP 7.0 Update 1	0	-	0
Arcserve UDP 7.0	0	-	0
Arcserve UDP 6.5 Update 4	0	パッチ P00001738 の適用	0
Arcserve UDP 6.5 Update 3	0	6.5 Update 4 に更新	х

		してから	
Arcserve UDP 6.5 Update 2	0	パッチ	х
Arcserve UDP 6.5 Update 1	0	P00001738	х
Arcserve UDP 6.5	0	を適用	х
Arcserve UDP 6.0 (すべての Update)	х	-	х

重要: Arcserve UDP コンソールのバージョンが Cloud Hybrid のバージョン以上であ るかどうかを確認します。たとえば、Cloud Hybrid のバージョンが 7.0 Update 2 で も、コンソールのバージョンが 6.5 である場合、プランの作成や既存のプランの変更 を行って、オンプレミスでリモートで管理された RPS へのレプリケート タスクを追加ま たは変更すると、エラーメッセージが表示されます。次のメッセージが表示されま す: コンソールのバージョンが古くなっています。コンソールをアップグレードしてやり 直してください。

プランを保存するには、v6.5 Update 4 のオンプレミスコンソールにパッチ P00001738 を適用します。

第2章: バックアップ サービスとしての Cloud Hybrid の 使用

Arcserve UDP Cloud Hybrid (BaaS) では、以下の機能を実行できます。

- オンプレミス RPS (Recovery Point Server、復旧ポイントサーバ)から Cloud Hybrid の対応する RPS にバックアップイメージをレプリケートします。
- Cloud Hybrid RPS からオンプレミス RPS にファイル/フォルダをリストアおよびダウンロードします。
- Cloud Hybrid に Microsoft Office 365 Exchange Online、SharePoint Online、 または OneDrive データを保護 するプランを作成します。
- Cloud Hybrid から Office 365 サーバに Office 365 Exchange Online、
 SharePoint Online データをリストアします。
- Arcserve UDP Cloud Hybrid からローカル ディスクに Microsoft Office 365 OneDrive ドライブをエクスポートします。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバへのデータのレプリケート	
Cloud Hybrid からのファイルおよびフォルダのダウンロード/復旧	
Microsoft Office 365 データを Cloud Hybrid に保護するプランの作成	
インスタント仮想ディスクを使用してアシュアードリカバリを実行する方法	
Arcserve UDP Cloud Hybrid からの保護されている Microsoft Office 365 旧	<u>データの復</u> 32

Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバへのデータのレプリ ケート

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- 共有プランを使用して保護された Windows ノード データをレプリケートする 方法
- 共有プランを使用して保護された Linux ノード データをレプリケートする方
 法

共有プランを使用して保護された Windows ノード データをレプリケートする方法

異なる Arcserve UDP コンソールから管理されている Cloud Hybrid にある別の復旧 ポイントサーバにバックアップデータをレプリケートできます。

新しいプランを作成し、後でレプリケートされた Cloud Hybrid プランにノードを移動します。

以下の手順に従います。

- 1. 電子メールで受信した認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- エージェントまたはエージェントレス バックアップ タスクを追加した後、ローカル Arcserve UDP アプライアンスで Arcserve UDP プランを作成または変更し、 リモート 管理の RPS へのレプリケート]タスクを追加します。
- 3. **リモート管理の RPS へのレプリケート**]タスクの **デスティネーション**]タブで、受信した電子メールの情報を使用して、リモート コンソール、ユーザ名、およびパスワードを追加します。

ポート: 8015

プロトコル: HTTPS

注: Cloud Hybrid にあるリモート コンソールでは、これらの認証情報が検証されます。

4. ネットワークでインターネット プロキシが使用されている場合は、 プロキシの有効 化]を選択し、ネットワーク仕様に合わせて設定します。

注: この情報は変わる可能性があり、ローカルネットワークからインターネットにアクセスするようにブラウザを設定することと同様です。

- 5. **接続**]をクリックして、Cloud HybridのRPSサーバへの接続を検証します。
- 6. [プラン]ドロップダウン リストから、Cloud Hybrid RPS サーバからのレプリケーション プ ランを選 択します。

注:選択されたプランは、企業のCloud Hybrid RPS サーバからの共有プランです。

7. 保存]をクリックすると、次のバックアップ後にデータがレプリケートされます。

デフォルト では、バックアップの完了後にノード レプリケーションが開始され、ノード からの復旧ポイントが Cloud Hybrid RPS サーバにレプリケートされます。 スケジュー ルを変更するため、 レプリケーション スケジュールを追加できます。

共有プランを使用して保護された Linux ノード データ をレプリケートする方法

Arcserve UDP では、プランを作成し、Linux バックアップ セッションを復旧ポイント サーバに保存することができます。また、Arcserve UDP では、Cloud Hybrid にある 別の RPS への Linux 復旧ポイントのレプリケーションが可能です。

以下の手順に従います。

- 1. 受信した電子メールに記載されている認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- エージェントまたはエージェントレス バックアップ タスクを追加した後、ローカル Arcserve UDP アプライアンスで Arcserve UDP プランを作成または変更し、 「Uモート」 管理の RPS へのレプリケート]タスクを追加します。
- 3. 『Jモート管理の RPS へのレプリケート]タスクの「デスティネーション]タブで、受信した電子メールの情報を使用して、Jモートコンソール、ユーザ名、およびパスワードを追加します。

ポート: 8015

プロトコル: HTTPS

注: これらの認証情報は、Cloud Hybrid にあるリモート コンソールで検証されます。

4. ネットワークでインターネット プロキシが使用されている場合は、 プロキシの有効 化]を選択し、ネットワーク仕様に合わせて設定します。

注: この情報は変わる可能性があり、ローカルネットワークからインターネットにアクセスするようにブラウザを設定することと同様です。

- 5. **接続**]をクリックして、Cloud HybridのRPSサーバへの接続を検証します。
- 6. [プラン]ドロップダウン リストから、Cloud Hybrid RPS サーバからのレプリケーション プ ランを選 択します。

注:選択されたプランは、企業のCloud Hybrid RPS サーバからの共有プランです。

7. 保存]をクリックすると、次のバックアップ後にデータがレプリケートされます。

デフォルト では、バックアップの完了後にノード レプリケーションが開始され、ノード からの復旧ポイントが Cloud Hybrid RPS サーバにレプリケートされます。 スケジュー ルを変更するため、 レプリケーション スケジュールを追加できます。

Cloud Hybrid からのファイルおよびフォルダのダウンロード/復旧

Arcserve UDP Windows/Linux エージェント ブラウザで、Cloud Hybrid からデータをダウンロードできます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Microsoft Windows ファイルシステムを使用して Cloud Hybrid からファイルと フォルダをダウンロードする方法
- <u>Cloud Hybrid からファイルとフォルダを復旧する方法</u>

Windows ファイル システムを使用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロードする方法

Cloud Hybrid では、以下の方法を使用して、Windows ファイルシステムからファイルおよびフォルダをダウンロードできます。

以下の手順に従います。

- 1. Windows ファイル システムのブラウザから Cloud Hybrid を開きます。
- 2. 左側のペインの 「デスティネーション」メニューを展開して、 **復旧ポイント** サーバ」オプションを選択します。
- 3. ファイル/フォルダのダウンロード元の復旧ポイントサーバを選択します。
- 目的の復旧ポイントサーバをダブルクリックします。
 データストアリストが表示されます。
- 5. 特定のデータストアを右クリックして、 **復旧ポイントの参照**]をクリックします。

データストアの [**サマリ**]ページが表示され、特定のノードに割り当てられたプ ランに基づいて保護されたノードが表示されます。

- 6. 目的のプランをダブルクリックし、目的のノードを選択します。
- 特定のプランを右クリックし、「リストア」をクリックします。
 選択したノードの「リストア」ウィザードが表示されます。
- 8. 復旧ポイントの参照]オプションをクリックします。
 復旧ポイントの参照]ダイアログボックスが表示されます。
- 9. ファイル/フォルダをダウンロード する必要 があるバックアップ イメージの復旧ポイント(日付および時間)を選択します。
- 10. ボリュームを展開してファイル/フォルダを参照します。 注: プロンプトで要求された場合、セッション パスワードを入力する必要が
 - あります。
- 11. ダウンロード アイコンをクリックします。

注: ファイルは元のファイルとしてダウンロードされ、フォルダは zip ファイルとしてダウンロードされます。

Windows ファイルシステムの選択したファイル/フォルダが正常にダウンロードされます。

Cloud Hybrid からファイルとフォルダを復旧する方法

Arcserve は、Cloud Hybrid から、SFTP クライアントを使用してローカル Arcserve UDP コンソールで作成されたマウント済み復旧ポイントにデータをリストアする機能 を提供しています。

以下の手順に従います。

- FileZilla などの Arcserve UDP コンソール サーバ SFTP クライアントに接続し、 以下の手順を実行します。
 - a. 新しいサイトを作成し、FileZilla などの Arcserve UDP コンソールサーバ SFTP クライアントに接続します。
 - b. ウェルカム電子メールに記載されている Arcserve UDP コンソールサーバ名、ユーザ名、およびパスワードを指定します。
 注: デフォルトポート番号 37037を指定します。
 - c. **接続**]をクリックします。
- 2. 復旧ポイントをマウントするには、以下の手順を実行します。
 - a. SFTP クライアントを最小化します。
 - b. 名前 Cloud Hybrid.
 - c. 左側のペインの **デスティネーション**]メニューから、 **復 旧ポイント サー** バ]オプションを選 択します。
 - d. 目的の復旧ポイントサーバを選択して、データを復旧します。
 - e. 目的の復旧ポイントサーバをダブルクリックします。 データストアリストが表示されます。
 - f. 特定のデータストアを右クリックして、 **復旧ポイントの参照**]をクリックします。

データストアの [サマリ]ページが表示され、特定のノードに割り当てられたプランに基づいて保護されたノードが表示されます。

- g. 目的のプランをダブルクリックし、目的のノードを選択します。
- h. 選択したノードを右クリックし、「リストア」をクリックします。
 選択したノードの「リストア」ウィザードが表示されます。
- i. [Jストア]ダイアログボックスを閉じ、 タスク]ペインから 復 旧ポイントのマウント]を選択します。
 データストアおよびノードの情報が表示されます。

i. カレンダで、マウントするバックアップイメージの日付を選択します。

- k. マウント する復旧 ポイントを選択します。
- マウントするボリュームまたはドライブを見つけて、マウント]をクリックします。

注:ボリューム Z にドライブをマウントできます。

- m. 暗号化パスワードを指定し、 [OK]をクリックします。
 選択されたボリュームがマウントされ、 腹 旧ポイントのマウント]ダイア ログ ボックスの [マウントされたボリューム]のリストに表示されます。
- 3. 以下の手順を実行し、ボリューム Z にマウントされた復旧ポイントを使用して、Cloud Hybrid からファイルおよびフォルダを復旧します。
 - a. SFTP クライアントを開き、作成されたサイトを選択して、マウントされた 復旧ポイントに接続します。
 - b. マウントされた復旧ポイントにドラッグすることで、Cloud Hybrid からファ イルまたはフォルダを選択します。

Cloud Hybrid からファイルおよびフォルダが復旧されます。

Microsoft Office 365 データを Cloud Hybrid に保護す るプランの作成

Microsoft Office 365 Exchange 保護は、Microsoft Exchange Online メールフォルダ およびアイテムをバックアップおよびリストアするのに使用されます。Exchange オンラ イン コンテンツを保護するには、プランの作成が必要です。

詳細については、「Exchange Online プランを作成する方法」を参照してください。

Microsoft Office 365 SharePoint 保護を使用して、Microsoft SharePoint Online サ イトとリスト アイテムをバックアップおよびリストアします。SharePoint Online は、 Microsoft Office 365 の主要製品の1つです。SharePoint コンテンツを保護するに は、プランの作成が必要です。

詳細については、「<u>SharePoint Online バックアッププランを作成する方法</u>」を参照 してください。

Microsoft Office 365 OneDrive 保護は、Microsoft OneDrive ファイルおよびフォルダ アイテムをバックアップおよびリストアするのに使用されます。OneDrive は、Microsoft Office 365 の主要製品の1つです。OneDrive コンテンツを保護するには、プランの 作成が必要です。

詳細については、「<u>Microsoft Office 365 OneDrive ノード バックアップ プランを作成</u> <u>する方法</u>」を参照してください。

インスタント仮想ディスクを使用してアシュアード リカバ リを実行する方法

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインし、アシュ アードリカバリタスクを作成します。
- 2. **リソース**]タブ **ノード/すべてのノード**]に移動し、アシュアードリカバリタス クのノードを選択して、バックアップパスワードを設定します。

注: レプリケートされた復旧ポイントが確実に変換されるように、仮想スタン バイおよびリストアタスクのバックアップパスワードを設定する必要がありま す。指定されたバックアップパスワードは、オンプレミスソースノードをバック アップするのに使用されるプランで定義されているセッションパスワードと同じ です。

3. ノードを右 クリックし、表示されたオプションから **[バックアップ パスワードの設 定**]を選択します。

ノード xxx のバックアップ パスワードの設定]ダイアログ ボックスが表示されます。

ノード w2019jesx1 のバックアップ パスワードを設定					×	
1 つ以上のバックアップ暗号化バス。 ために連続して使用されます。 生: いずれのバスワードも有効でな	ワードを入力します。パスワード い場合、バックアップ セッションは	は、 バッウアップ セッ : アクセスするジョブに	ションにアクセスするジョ ±失敗します。	1プで、 セッションの後	夏号化を試行する	
🕣 🏝 🛛 🔒 🕬						
◎ パスワード	バスワードの確認	과가		作成時刻	1	
	******	***		2019/09/	26 18:04:13	
			¥# 1	42184	NF7	

- 4. バックアップ パスワードを追加し、 保存]をクリックします。
- 5. **リソース**]タブで、 **プラン/すべてのプラン**]を選択します。
- レプリケーション プランを編集し、アシュアードリカバリタスクとしてタスク2を 追加します。

注:複数のバックアップパスワードを追加できます。

7. ソースを指定し、アシュアード リカバリテストに必要な復旧ポイントの種類を 選択します。 注:最新の復旧ポイントのバックアップタイプを選択できます。

- 8. **Fスト設定**]タブに移動します。
- 9. テストの種類]の タスク設定]を インスタント 仮想 ディスク]と指定し、以下の詳細を指定します。
 - ◆ Windows プロキシ サーバ: Cloud Hybrid の FQDN を入 力します。
 - ◆ 仮想ハードディスクファイルフォルダの参照: F:\VMStorage

注:上記のパスが利用できない場合、F:ドライブに VMStorage フォル ダを手動で作成します。

arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION
ダッシュボード <mark>リソース</mark> ジョブ レポート ログ 設定	
プランの変更	レプリケート (31D_1W1M1C) □ このプランを一時停止
タスク1:リモートで管理されている 📀 RPS からレプリケート	タスクの種類 アシュアードリカギリテスト 👻
<u> </u>	ソース テスト設定 スケジュール 拡張
 タスクの追加 	ታ ተሉ ር – ታ ህ ታ ተሉ
製品の七ストール	テスト タイプの O インスタント VM 🕜 🤎 インスタント仮想ディスク 🕜
	Windows プロキシ サー ①

- 10. 必要な **スケジュール**]設定を指定します。 **注**: プロキシ サーバにアクセスできないため、詳細設定のカスタムコマンドは サポートされません。
- 11. 保存]をクリックします。

変更が正常に保存され、アシュアードリカバリタスクが自動的に展開されます。 レプリケーション ジョブの後、アシュアードリカバリジョブが自動的に実行され、スケ ジュール設定を使用して制御されます。

詳細情報:

ノードに対するアシュアードリカバリテストの手動実行 プランに対するアシュアードリカバリテストの手動実行

Arcserve UDP Cloud Hybrid からの保護されている Microsoft Office 365 データの復旧

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Microsoft SharePoint Online サイト コレクション データをリストアする方法
- Microsoft Office 365 Exchange メールボックス データをリスト アする方法
- Microsoft OneDrive データのリストア方法

Microsoft SharePoint Online サイト コレクション データ をリストアする方法

SharePoint Online リスト/ライブラリまたはサイトのリスト アイテムをリストアできます。 サイト コレクションとサイトは、Arcserve UDP v6.5 ではまだサポートされていません。 新しい名前で元のサイトにデータをリストアすること、元の場所にデータをリストアす ること、および復旧ポイントからディスクにデータをエクスポートすることができます。

詳細については、「<u>SharePoint Online サイト コレクション データをリストアする方法</u>」 を参照してください。

Microsoft Office 365 Exchange メールボックス データを リストアする方法

Microsoft クラウドから電子メール、予定表、連絡先、メモ、タスクなどの Exchange Online メールボックス データをリストアできます。 元の場所 や別の場所 にデータをリ ストアしたり、復旧ポイントからディスクにエクスポートしたりすることができます。

詳細については、「<u>Exchange Online メールボックス データをリストアする方法</u>」を参照してください。

Microsoft OneDrive データのリストア方法

Microsoft OneDrive ファイルおよびフォルダをローカル ディスクにエクスポート できま す。リストア オプションを使用してリストアすることができます。詳細については、 「<u>Microsoft OneDrive データをリストアする方法</u>」を参照してください。

また、エージェント ユーザ インターフェースから 「ボリュームのマウント]オプションを使用してリストアすることもできます。詳細については、「<u>Cloud Hybrid からファイルと</u> フォルダを復旧する方法」を参照してください。
第3章: 惨事復旧サービスとしての Cloud Hybrid の使 用

重要: Cloud Hybrid Compute Service を使用するには、すでに Cloud Hybrid RPS で利用可能なバックアップが用意されている必要があります。詳細については、 「Cloud Hybrid 復旧ポイントサーバにデータをレプリケートする方法」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Linux ファイルシステムを使用して Cloud Hybrid からファイルとフォルダをダウンロード	
<u>する方法</u>	.38
<u>仮想スタンバイを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧システムの実行</u>	39
<u>インスタント VM を使用した Cloud Hybrid での惨事復旧テストの実行</u>	48
アシュアード リカバリを使用した Cloud Hybrid での惨事復旧のテストの自動化	,68
<u>Cloud Hybrid の惨事復旧システムへの接続</u>	76

Linux ファイル システムを使用して Cloud Hybrid から ファイルとフォルダをダウンロードする方法

Cloud Hybrid では、Linux ファイルシステムからファイルとフォルダをダウンロードできます。

注: Cloud Hybrid BaaS では、<u>手動リバースレプリケーション</u>による Cloud Hybrid からの Linux ファイルリストアが可能です。

以下の手順に従います。

- 1. Linux ファイル システムのブラウザで Arcserve UDP Agent for Linux Web イン ターフェースを開きます。
- 2. **[ウィザード**]メニューの **[Jストア**]をクリックし、 **復旧ポイントのマウント**]を選択します。

リストア ウィザード - 復旧ポイントのマウント]が開きます。

- 3. ドロップダウンリストから、データストアおよびノードを選択します。
- 4. **[DK**]をクリックします。
- 5. バックアップイメージの復旧ポイント(日付と時刻)を選択します。
- 6. **腹旧ポイントの共有方法**]ドロップダウンリストから [WebDAV]オプション選択します。
- 7. ユーザ名 /パスワードを設定し、マウント ジョブをサブミットします。
- 8. URLを開き、ファイルをダウンロードします。

ダウンロード URL は https://<your-cloudhybrid-FQDN>:8018/share/<username for mount>/ です。

Linux ファイルシステムの選択したファイル/フォルダが正常にダウンロードされます。

仮想スタンバイを使用した Cloud Hybrid での惨事復 旧システムの実行

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- <u>惨事復旧システムで Hyper-V サーバを使用する方法</u>
- 仮想スタンバイを使用して Cloud Hybrid のデータを復旧する方法

惨事復旧システムで Hyper-V サーバを使用する方法

Hyper-V サーバおよび Arcserve UDP サーバに対して同じサーバ設定が利用可能 であるため、以下の考慮実行によって、Arcserve UDP サーバに影響を与えること なく Hyper-V サーバの仮想マシンを作成できます。

- 他のドライブはオペレーティングシステムおよび Cloud Hybrid 用に予約されているため、F:\VMStorage フォルダを使用して仮想マシンを格納します。デフォルトの仮想マシンパスは、F:\VMStorage に設定されています。
- 仮想マシンがDHCPからIPアドレスを取得するのに役立つArcserve_ Private_Cloudネットワークを使用します。
- 仮想マシンの実行のためにシステムメモリが消費されるため、Arcserve UDP データストアの使用のためにメモリを予約する必要があります。システムメモリの使用状況を監視するには、「データストア」ページに移動します。

仮想スタンバイを使用して Cloud Hybrid のデータを復 旧する方法

Arcserve では、仮想スタンバイタスクを使用して、Cloud Hybrid で実行されている スタンバイ仮想マシンの電源をオンにする機能が提供されます。

注: ハイパーバイザの詳細については、<u>Arcserve サポート</u>にお問い合わせください。

以下の手順に従います。

1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインし、仮想スタンバイタスクをセットアップします。

注: Cloud Hybrid のログインに関する詳細については、ウェルカム電子メールを参照してください。

2. **リソース**]タブ - **ノード/すべてのノード**]に移動し、仮想スタンバイタスクのノード を選択して、バックアップパスワードを設定します。

注: レプリケートされた復旧ポイントが確実に変換されるように、仮想スタンバイお よびリストアタスクのバックアップパスワードを設定する必要があります。指定され たバックアップパスワードは、オンプレミスソースノードをバックアップするのに使用さ れるプランで定義されているセッションパスワードと同じです。

3. ノードを右クリックし、「バックアップパスワードの設定]を選択します。

[ノード XXX のバックアップパスワードの設定]ダイアログボックスが表示されます。

ノード w2019jesx1	のバックアップ パスワードを	設定	×
1 つ以上のバックアップ暗 ために運続して使用され。 生: いずれのバスワードも	号化バスワードを入力します。バスワー ます。 有効でない場合、バックアップ セッショ	- ドは、 バッウアップ セッションにアク ンにアクセスするジョブは失敗しま:	セスするジョブで、セッションの復号化を試行する す。
🕣 🏝 🛛 👌 🕬 🕅 🕅			
◎ パスワード	バスワードの確認	고/가	作成時刻
	********	uene en e	2019/09/26 18:04:13
		保存	th/ lit

- 4. 1 つ以上のバックアップパスワードを追加し、 保存]をクリックします。
- 5. **[リソース**]タブで、 **プラン/すべてのプラン**]を選択します。
- 6. レプリケーション プランを編集し、仮想スタンバイとしてタスク2を追加します。
- 7. 阪想化サーバ]タブで、以下の詳細を入力します。

仮想化の種類: Hyper-V

Hyper-V ホスト名:Cloud Hybrid FQDN または IP アドレスを入 カします。 ユ**ーザ名:**Cloud Hybrid ユーザ名 を入 力します。 パスワード:Cloud Hybrid パスワードを入 力します。 プロトコル: HTTPS

ポート: 8014

8. 接続]をクリックします。

プランの変更	Replicate	□ このプランを一時停止
タスク1: リモートで管理されている 🥏 RPS からレプリケート	タスクの種類 仮想スタンバイ	
タスウ2:仮想スタンパイ 🚽 🥥	ソース 仮想化サーバ	仮想マシン 拡張
 タスクの追加 	サイト名 仮想化の種類	ローカル サイト Hyper-V
製品のインストール	Hyper-V ホスト名	ohe-d1.aroserve1.oom
	ユーザ名	olouduser 🗙
	バスワード	•••••
	ว้อหวม	OHTTP
	ボート	8014
	接続	

- 9. 仮想マシン]タブで、以下の情報を入力します。
 - a. 仮想スタンバイ VM に必要な適切な CPU 数とメモリを入力します。

注: 購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づいて、CPU 数 とメモリ割り当てを指定します。

b. Hyper-V 上の仮想スタンバイ VM について、以下のパスを指定する必要が あります。

F:\VMStorage

注:上記のパスはすべての仮想ディスクで使用できるわけではないため、 「*すべての仮想ディスクが同じパスを共有する*]オプションをオフにしないでくだ さい。

c. ネットワークを指定するには、「アダプタの種類]ドロップダウンリストから **ネッ** トワーク アダプタ]を、 *陸続先*]ドロップダウンリストから [Arcserve_Private_ Cloud] 選択し、ネットワークに接続します。

プランの変更	Replicate	□ このブランを一時停止
タスク1: リモートで管理されている (RPS からレプリケート	9スクの種類 仮想スタンバイ	
タスク2:仮想スタンパイ ・	 ソース 仮想化サーバ 基本設定 	(仮想マシン 拡張
 多スクの追加 	VM 名ブレフィックス	UDPVM_
製品の七ストール	復旧ポイント スナップショット CPU 数	5 (1 ² 4) 1 (1 ² 2)
	UJY	512MB 65534MB 1024 MB
	バス 「オペモの仮想ティスクは同じバスを共称 fWVMStorage 参照	दि≢र. ३
	ネットワーク スタンバイ仮想マシンに接続するネットワー 図 前回のバックアップのソースと同じ歌の アダプタの種類 Network Adapter	ウ アダブタの数と種類を指定します。また、アダブタを仮想ネットワークに接続する方法を指定します。 ネットワーク アダプタ ・
	●各ノードに指定されたカスタマイズ済み す。	ネットワーク設定は、ブランで指定されたカスタムネットワーク設定より優先されま

10. レプリケーション プランを右 クリックし、表示されたオプションから Pause and resume (一時停止と再開)]を選択し、復旧ノードのハイパーバイザにアタッチされたすべ てのノードの復旧ポイント変換を開始します。

0	win-81	Replicate			
θ	xo12	Replicate	史 次 削除		
			エンスポート ゴクスポート ブランの変更 ハイパーパイザの指定 エージェント へのログイン モニタ サーバへのログイン エージェントのインストール/アップグレード 診断情報の収集 今すぐパックアップ 一時停止 ハートビート	•	
			 仮想スタンパイ スタンパイ VM スタンパイ VM ネットワーク環境設定 リストア インスタント VM の作成 復旧ポイントをクラウドからダウンロード 復旧ポイントをクラウドにアップロード 復旧ポイントをクラウドにアップロード 復旧ポイントをローカル ディスクまたはネットワーク共有にコピー 	•	再開 一時停止

11. Cloud Hybrid 仮想スタンバイ(タスク2) で復旧ポイントの仮想マシンへの変換が 完了した後、Arcserve UDP コンソールの左側のペインにある 阪想スタンバイ]メ ニューから、Cloud Hybrid 仮想スタンバイ VM を開始または停止し、Cloud Hybrid で利用可能な仮想スタンバイユーザインターフェースで仮想マシンネットワークを 設定します。

	0	che-dt.arcserve1.com	スタンバイ VM - win-819vpjmh92p			×
	0	win-8	スナップショット			
			2019/09/26 22:00:13			
	0	xo12	2019/09/26 19:44:05			
			フタンパイ伝 練っつう ネットワークが 投空されていません。			
					VM の言葉をたったする	\$4070H
				11 1 1 1 1 1 1 1 1 	The second state of the se	11202

12. [VM の電源をオンにする]をクリックします。

📲 🛯 Hyper-V マネージャー	
ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘル	プ(H)
🔶 🄿 🙍 📰	
	仮想マシン(I)
	名前 大態 CPU 使用率 メモリの割り当て
	UD9VM_UNIV-87997M0429 on CHI-DB- 仮想マシン接続
	ファイル(F) 操作(A) メディア(M) クリップボード(C) 表示(V) ヘルプ(H)

仮想スタンバイ VM が稼働し、実行中になりました。

詳細情報:

<u>Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM の保護</u> <u>Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM をローカルサーバに復旧する</u>

Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM の 保護

Cloud Hybrid では、Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイマシンを保護できます。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 2. ウェルカム電子メールに記載されている、ハイパーバイザの IP アドレスを指定し、 仮想スタンバイ VM またはノードを追加または検出します。
- 3. **タスク1**]を使用し、エージェントレス バックアップを使用して新しいプラン(たとえば、 クラウド バックアップ プラン)を作成します。

注: 不注意による復旧ポイントを回避するには、ローカルジョブから本番ノードを 削除することを検討します。

- 4. ハイパーバイザからノードを追加します。
- 5. デスティネーションとして Cloud Hybrid の RPS データ ストアを使用します。
- 6. バックアップジョブの スケジュール]タブとその他の設定を確認します。
- 7. 保存]をクリックします。

本番仮想スタンバイマシンが正常に保護されました。

Cloud Hybrid で実行中の本番仮想スタンバイ VM を ローカルサーバに復旧する

Cloud Hybrid で実行中の仮想スタンバイマシンをローカル環境に再構築またはリ ストアできます。オンサイトのオンプレミス RPS に仮想スタンバイマシンをレプリケート し、すべての変更と共に、最新の/最も近い状態からリストアします。

以下の手順に従います。

- 仮想スタンバイ VM のバックアップを実行して、データの整合性を確保します。
 注:ローカルノードが復旧するまで、仮想スタンバイ VM をシャット ダウンすることをお勧めします。
- 2. **『リモート管理の RPS へのレプリケート**]タスクを追加して、オンプレミス RPS にバック アップ データをレプリケートします。
- 3. BMR (Bare Metal Recovery、ベアメタル復旧)を実行して、VMを復旧します。
- ローカルサーバを本番バックアップジョブに再度追加します。
 仮想スタンバイ VM がローカルサーバに復旧されました。

インスタント VM を使用した Cloud Hybrid での惨事復 旧テストの実行

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- <u>Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバを追加する方法</u>
- <u>Cloud Hybrid インスタント 仮想 マシンを作成 する方法</u>

Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバを追加する 方法

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 左ペインから、 **すべてのノード**]を選択します。
 ノードのリストが中央のペインに表示されます。
- 「ノードの追加]をクリックします。
 「Arcserve UDP コンソールへのノード追加]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4. **ノードの追加**]ドロップダウンリストから、 **Linux バックアップ サーバノードの** 追加]を選択します。

アクション	- ノードの追加		
- 4	Arcserve UDP コンソール へのノ	ードの追加	
	ノードの追加 Linux バックアップ サーバ	ノードの追加	
		□ ノーキ	×ع ۷
	ノード名/IP アドレス	ノードをリスト 10.10.255.255	トに追加していません。
	ユーザ名	root	
	パスワード	•••••	
	ポート	8018	
	プロトコル		
	記明の追加		
	Linux バックアップ サーバをインストーノ ウンロードします。 ファイルをダウンロー ロードしたファイルをコピーするにはイン bin ファイルに提供し、 bin ファイルを見 Linux バックアップ サーバ	ルするには、以下のリンクを使用して、必要なファイルをダ ドレ、サポートされている Linux マシン上のフォルダにダウン ターネットへのアクセスが必要です。"execute" 権限を 見行してください。	
		リストに追加	

- 5. 以下のLinux バックアップサーバノードの詳細を入力します。 ノード名/IP アドレス: Cloud Hybrid のパブリック IP ポート: 8018 プロトコル: https
- 6. **『リストに追加**]をクリックします。 ノードが右ペインに追加されます。
- 7. (オプション) 追加されたノードを削除するには、右側のペインでノードを選択し、**削除**]をクリックします。
- 8. 追加するノードを選択して 保存]をクリックします。
- 9. **ノード**]に移動し、 **すべてのノード**]を選択して、追加されたノードを表示します。

ノードが正常に追加されました。

Cloud Hybrid インスタント 仮想マシンを作成する方法

インスタント 仮想 マシン(インスタント VM) では、 ハイパーバイザで仮想 マシンを作成し、 事前の変換なしで仮想マシン内のバックアップ セッションを実行します。

インスタント 仮想 マシンのメリット:

- Arcserve UDP バックアップ セッション内 で利用可能なデータおよびアプリケーションにすぐにアクセスできます。
- 従来のリストアまたはバックアップセッションを物理マシンまたは仮想マシンに 変換することに関連して発生するダウンタイムが排除されます。

Cloud Hybrid の RPS サーバで以下のバックアップ セッションからインスタント VM を作成できます。

- エージェント ベースの Windows バックアップ
- エージェント ベースの Linux バックアップ
- ホスト ベースのエージェントレス バックアップ

インスタント VM を作成する方法:

- 1. Cloud Hybrid でインスタント VM ウィザードを開く
- 2. <u>Windows システムでのインスタント VM ウィザードを使用したインスタント VM の設</u> 定
- 3. Linux システムでのインスタント VM ウィザードを使用したインスタント VM の設定
- 4. <u>インスタント VM の作 成</u>

Cloud Hybrid でインスタント VM ウィザードを開く

Cloud Hybrid でインスタント VM ウィザードを使用して、インスタント VM を設定、 作成することができます。2 つのオプションのいずれかを使用して、インスタント VM ウィザードを開きます。

- ノード管理を使用してインスタント VM ウィザードを開く方法
- デスティネーション管理を使用してインスタント VM ウィザードを開く方法

ノード管理を使用してインスタント VM ウィザードを開く 方法

Cloud Hybrid で利用可能なノードを使用すると、インスタント VM ウィザードを開く ことができます。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid の RPS コンソールノード 管理ビューからウィザードを開きます。
- 2. [リソース]タブをクリックします。
- 3. 左ペインから、適切なサイトを選択し、 [ノード]に移動して、 「すべてのノード]をクリックします。

すべてのノードが中央のペインに表示されます。

4. ノードを右 クリックし、表示されたオプションから **インスタント VM の作成**]を選択します。

注: [インスタント VM の作 成]オプションは、ノード が少なくとも 1 つのプランに関連付けられている場合にのみ動作します。

インスタント VM ウィザードを開きます。

デスティネーション管理を使用してインスタント VM ウィ ザードを開く方法

Cloud Hybrid で利用可能なデスティネーションを使用すると、インスタント VM ウィ ザードを開くことができます。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid の RPS コンソール デスティネーション管理ビューからウィザードを開きます。
- 2. デスティネーション]- 腹 旧ポイント サーバ]の順に移動します。
- 3. [リソース]タブをクリックします。
- 左ペインから、目的のサイトを選択し、「デスティネーション」に移動し、 腹旧ポイント サーバ]をクリックします。

以前追加したデータストアが中央ペインに表示されます。

- 5. 目的のデータストアをクリックします。
 RPS にデータをすでにバックアップしている場合、すべてのソースノードがペインに表示されます。
- ノードを右クリックし、 インスタント VM の作成]を選択します。
 インスタント VM ウィザードを開きます。

Windows システムでのインスタント VM ウィザードを使 用したインスタント VM の設定

インスタント VM ウィザードを使用して、作成前に詳細を入力することで、インスタ ント VM を設定できます。 インスタント VM を設定するには、以下の手順に従いま す。

1. 復旧ポイントの選択

コンソールは自動的に復旧ポイントの場所を認識し、ロケーションタイ プ、Cloud Hybrid の復旧ポイントサーバ、データストアが事前に選択さ れます。

1	גע	.タント VM (w20	19jesx1)の作成	λ.			
復	日ポ	イントを選択(ステ	ップ 1 / 4)				
ະຫ,	ノード	€によって使用されている場	腑がら復旧ポイントを参	照します。			
[ロケー	-ション タイプ	RPS 上のデ	- 9 ストア			
í	復旧	ポイントサーバ	che-dr.arcser	che-dr.arcserve1.com			
÷	データ	፣ አኮፖ	arcstore01		-		
,	vM ā	を開始する復旧ポイントを	選択します。				
		日付	セッション名	時刻	アシュアードリカバリ	パックアップの種類	パックアップ スケジュール
	4	最新					
		2019/09/25	S000000023	2019/09/25 22:00:27	0	増分	毎日
		今日					
	Þ	昨日					
	Þ	過去7日間					
	Þ	過去 30 日間					
	Þ	30日経過					

旧付]リストを展開し、必要な復旧ポイントをリストから選択して 次 へ]をクリックします。 [VM の場所]ページが表示されます。

2. VM の場所の選択

インスタント VM を作成する仮想マシンの場所を指定します。Cloud Hybrid 内の Microsoft Hyper-V 仮想マシンを指定できます。

以下の手順に従います。

- a. [ハイパーバイザの種類]として [Hyper-V]を選択し、 追加]をク リックします。
- b. [VM デスティネーションの指定]ダイアログボックスで、ウェルカム電子メールに記載されている Hyper-V サーバの IP アドレスと認証情報を入力し、[DK]をクリックします。

	4)			
ンスタント VM をホストする VMwar	e vSphere または Microsoft Hyper-V上	の場所を指定します。		
ヽイパーパイザの種類	Marosoft Hyper-V	*		
-typer-V Server/クラスタ	che-di.arcserve1.com	🚽 注加	更新	
以下のリストから場所を選択します。				
名前		種類		
the-d.arcserve1.com		Hyper	-V Server	
the-d.arcserve1.com		Нурег	-V Server	
the diarcserve 1.com		Hyper	-V Server	
de-darcserve1.com		Hyper	–V Server	
the-diarcserve1.com		Hyper	-V Server	
the-d arcserve1.com		Нуре	-V Server	
the-diarcserve1.com		Нуре	-V Server	
thed arcserve1.com		Нуре	-V Server	
the-diarcsenvel.com		Нуре	-V Server	
the-diarcsenvel.com		Нуре	-V Server	
the-diarcsenvel.com		Нуре	-V Server	
the-diarcsenvel.com		Нуре	-V Server	

c. **次へ**]をクリックします。

腹旧サーバ]ページが開きます。

3. 復旧サーバの選択

復旧サーバは、インスタント VM のコア モジュールをホストします。 デフォルトの復旧サーバは、Cloud Hybrid で提供されている Hyper-V です。

Linux バックアップ セッションの場合、復旧サーバは Arcserve Business Continuity Cloud で提供されている Linux バックアップ サーバです。

インスタント VM (win-8)の作成

復旧サーバ (ステップ 3 / 4)

Hyper-Vサーバ che-dr.arcserve1.com が自動的に復旧サーバとして選択されました。復旧サーバが以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

🕐 x64 Windows 2008 R2 以上のパージョン。

🥑 エージェントがインストールされ、現在のコンソールによって管理される必要があります。

次へ]をクリックすると、 [インスタント VM 詳細]ページが表示されます。

4. 仮想マシンの詳細の指定

以下の手順に従います。

- a. インスタント VM の名前と説明を指定します。
- b. 復旧サーバ上のインスタント VM のフォルダの場所を指定します。
 Hyper-V ディスクの場所について、以下のパスを指定する必要があります。

F:\VMStorage

25ミマンンのハードフェアおよびケス	、ト オペレーテインク システム環境を設定します。			
M名	UDPIVM			
光明				
M フ ァ イル フ ォ ルタ 🕜	復旧サーバ上 (che-dr.arcserve1.com)			
				参照
CPU 数	2 -		_	
(モリ サイズ	512 MB	4096	MB (使用可能: 61452 MB)	
ネットワーク アダプタ			⊕ アダプタの追加	🐻 DNS の更新
やっトワーク アダプタ 仮想ネットワーク	種類 IP アドレス		⑦ アダプタの追加	🛃 DNS の更新 アウション
いっトワーク アダプタ 仮想ネットワーク	種類 IP アドレス		⑦ アダプタの追加	Cons の更新 アウション
やットワーク アダプタ 仮想ネットワーク り ソース マシンがアクティブなま 生する可能性があります。	種類 IP アドレス 場合、仮想マシンとソース マシンを同じネットワークに接続し	ኔい で (ጅちぃ, 赤フ	⑦ アダブタの追加 ⑦ アダブタの追加 Rト名が競合しているため、これによ	 CNS の更新 アクション tb子期せぬ問題が発
 ネットワーク アダプタ 仮想ネットワーク ソース マシンがアクティブなま 生する可能性があります。 詳細 	種類 IP アドレス 場合、仮想マシンとソース マシンを同じネットワークに接続し	ኔぃ ᠵ <ᢄᢣᡡ	⑦ アダブタの追加 ◎ アダブタの追加 ◎ ペート名が競合しているため、これによ	 CNS の更新 アウション たり予期せぬ問題が発
ネットワーク アダプタ 仮想ネットワーク リース マシンがアクティブなは 生する可能性があります。 ★ 詳細 ▼ VM ファイル フォルダ容量の	種類 IP アドレス ま合、仮想マシンとソース マシンを同じネットワークに接続し ディスク空き容量のモニシ	ないでください。ホス	⑦ アダブタの追加 □	CNS の更新 アクション
 ネットワーク アダプタ 仮想ネットワーク ソース マシンがアクティブなま 生する可能性があります。 ★ 詳細 M ファイル フォルダ容量の: M ファイル フォルダ容量の: 	建築 IP アドレス 場合、仮想マシンとソースマシンを同じネットワークに接続し ディスク空き容量のモニな 単が次の値を下回った場合にディスク空き容量の不足を警	ないでください。ホン 告 3 K	⑦ アダブタの追加 ◎ ⑦ アダブタの追加 ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ○ □	 CNS の更新 アウション CDP予期世ぬ問題が発

- c. 以下のインスタント VM 設定を指定します。
 - ◆ インスタント VM に必要な CPU の数を示す [CPU 数]。
 - ◆ インスタント VM に必要なメモリのサイズを示す [メモリサイズ]。

```
注:購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づいて、CPU 数とメモリ割り当てを指定します。
```

d. ネットワークを指定するには、「仮想ネットワーク」ドロップダウンリストから [Arcserve_Private_Cloud]を、「アダプタの種類]ドロップダウンリストから [ネットワークアダプタ] 選択し、IVM をネットワークに接続します。

ネットワーク アダブタの追加		×
仮想ネットワーク アダプタをソースまたはカスタムの TOP/IP 設立	定で追加できます。	
仮想ネットワーク		
Arcserve_Private_Cloud		-
アダプタの種類		
Network Adapter		-
TCP/IP 設定		
ソース:(自動)		-
・ アドレスの追加 ・ 削除 ● ●		
7ドレス		
[□] IP: 自動		A
□ Gateway: 自動		- 11
		- 1.
^回 DNS: 自動		- 11
⊒ WIN C- 白融		- 1
- mns. g <i>ø</i>		
5 4 5	OK	den 2 deut
(NU) /	UK	49,7210

- e. **[DK**]をクリックします。
- f. [VM ファイルフォルダ容量のディスク空き容量のモニタ]チェックボック スをオンにすることをお勧めします。
- g. (オプション) インスタント 仮想 マシン ホスト名を変更します。

これで、ジョブを<u>サブミット</u>し、インスタント VM を作成する準備ができました。

Linux システムでのインスタント VM ウィザードを使用し たインスタント VM の設定

インスタント VM ウィザードを使用して、作成前に詳細を入力することで、インスタント VM を設定できます。インスタント VM を設定するには、以下の手順に従います。

1. Linux バックアップ サーバの追加

詳細については、「<u>Cloud Hybrid で Linux バックアップ サーバノードを追</u> <u>加する方法</u>」を参照してください。

2. 復旧ポイントの選択

コンソールは自動的に復旧ポイントの場所を認識し、ロケーションタイ プ、Cloud Hybrid の復旧ポイントサーバ、データストアが事前に選択さ れます。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアベイラビリティ

	ップ 1 / 4)				
リノードによって使用されている場	鳥所から復旧ポイントを参	照します。			
ロケーションタイプ	RPS 上のテ	የ ኳ			
復旧ポイントサーバ	che-di arcserve1	Loom	-		
データ ストア	ansatore01		Ŧ		
VMを開始する復旧ポイントを	選択します。				
日付	セッション名	時刻	アシュアードリカバリ	パックアップの種類	r
▲ 最新					
2019/09/12	S000000010	2019/09/12 22:00:15	θ	増分	
▶ 今日					
▷ 昨日					
▷ 過去7日間					
▷ 過去 30 日間					
▷ 30日経過					

旧付]リストを展開し、必要な復旧ポイントをリストから選択して 次 へ]をクリックします。

注: バックアップ セッションが暗号 化されている場合、パスワード プロンプトが表示されます。

[VM の場所]ページが表示されます。

3. VM の場所の選択

インスタント VM を作成する仮想マシンの場所を指定します。Cloud Hybrid 内の Microsoft Hyper-V 仮想マシンを指定できます。

以下の手順に従います。

- a. [ハイパーバイザの種類]として [Hyper-V]を選択し、 追加]ボタ ンをクリックします。
- b. [VM デスティネーションの指定]ダイアログボックスで、ウェルカム電子メールに記載されている Hyper-V サーバの IP アドレスと認証情報を入力し、[OK]をクリックします。

インスタント VM(35.17)の作成

	Microsoft Hyper-V	*		
Hyper-V Server/クラスタ	che-dr.arcserve1.com	→ 注血力口	更新	
以下のリストから場所を選択します	ŧ.			
名前		種類		
che-dr.arcserve1.com		Hyper-V Serv	er	

復旧サーバ]ページが開きます。

4. 復旧サーバの選択

復旧サーバは、インスタント VM のコア モジュールをホストします。デフォルトの復旧サーバは、Cloud Hybrid で提供されている Hyper-V です。

Linux バックアップ セッションの場合、復旧サーバは Arcserve Business Continuity Cloud で提供されている Linux バックアップ サーバです。

אכ	タント VM(35.17)の)作成			
即日サ	ーバ (ステップ 3 / 4)				
ンスタン	ト VM を実行する Linu× パック	アリプサーハを指定します。			
7-k	ሀストから Linux パックアップ サ	ーパを選択します。			
10.	10.255.255			×	70113
	/−F &	752	表品	03	
	10.10.255.255		<u> </u>	Red Hat Enterprise Linux rele	ase 8.0
<					>
N	< K−ジ <u>1</u> /1 ► ►	2		1 – 1/1 の表示	

へルプ	前に戻る	次へ	キャンセル	

(次へ)をクリックすると、 [インスタント VM 詳細]ページが表示されます。

5. 仮想マシンの詳細の指定

以下の手順に従います。

- a. インスタント VM の名前と説明を指定します。
- b. [*VM ファイル フォルダの指定*]が選択されている場合、以下のパスを 指定します。

F:\VMStorage

arcserve [®] UNIFIED DATA PROTECTION	
ダッシュボード リソース ジョブ レボート ログ 設定	. ハイアベイラビリティ
	インスタント VM(35.17)の作成
	仮想マシン設定 (ステップ 4 / 4)
	仮想マシンのハードウェアおよびゲスト オペレーティング システム環境を設定します。
	説明
	□ VM ファイル フォルダの指定 CPU 24
	メモリサイズ 512 MB (1) 65534 MB 4096
	ネットワーク アダプタ
	仮想ネットワーク 雅策 ₽ アドレス
	① Linux バックアップサーバ 10:00:05:5:00 と通信できるネットワーク アダプタを少なくとも 1 つ設定してください。
	ソースマシンがアクティブな場合、仮想マシンとソースマシンを同じネットワークに接続しないでください。ホスト名が競合しす。
	☆ 詳細
	□ホスト名の変更
	□ インスタント VM の起動後に自動的にテータを復旧する
	A,JU7

- c. 以下のインスタント VM 設定を指定します。
 - ◆ インスタント VM に必要な CPU の数を示す [CPU 数]。
 - ・ インスタント VM に必要なメモリのサイズを示す
 「メモリサイズ]。
 - **注**: 購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づいて、CPU 数とメモリ割り当てを指定します。
- d. ネットワークを指定するには、「仮想ネットワーク」ドロップダウンリストから [Arcserve_Private_Cloud]を、「アダプタの種類]ドロップダウンリストから [ネットワークアダプタ] 選択し、IVM をネットワークに接続します。

2巻ネットリーク アタブタをソースまたはカスタムの TOP/IP 設定(ー・・・・・・	2月11日に名字る。	
		•
Pダブタの神理実員 		
Network Adapter		Ŧ
FCP/IP 設定		
ソース:(自動)		Ŧ
🕣 アドレスの追加 🔹 📋 🎒 😢		
ንドレス		
∃ IP: 自動		4
∃ Gateway: 自動		
∃ DNS: 自動		
^当 WINS: 自動		
		•

- e. [DK]をクリックします。
- f. (オプション) インスタント 仮想 マシン ホスト名を変更します。
- g. ホスト ベース バックアップでは、 [インスタント VM の再 起 動 後 に自 動 的にデータを復旧する]を選択して、インスタント VM を独立した VM に変換することをお勧めします。

これで、ジョブを<u>サブミット</u>し、インスタント VM を作 成 する準 備 ができました。

注: Linux インスタント VM の [自動復旧の再開]オプションは、ホスト ベース バック アップにのみ適用可能です。

インスタント VM の作成

設定が完了したら、前のステップで作成したジョブをサブミットし、インスタント VM を作成できます。ジョブが完了したら、インスタント VM が **[リソース**]- **[インフラスト ラクチャ**]- **[インスタント仮想マシン**]に表示されます。

以下の手順に従います。

1. サブミットするには、 [VM の作成]をクリックします。

[VM の作 成] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 以下のオプションから1つを選択します。

今すぐに起動

インスタント VM を作成するジョブをサブミットします。 VM が作成されたら、 VM が自動的に起動されます。

後で起動

インスタント VM を作成します。 VM を手動で開始する必要があります。 インスタント VM ジョブが完了した後、 VM を起動できます。

キャンセル

VM が作成されることなく [VM の作成] ダイアログボックスが閉じられ、 [VM の作成]ページに自動的にリダイレクトされます。

インスタント VM ジョブが正常に作成されました。

Cloud Hybrid インスタント仮想マシンを管理する方法

インスタント VM は、Cloud Hybrid から管理できます。 インスタント VM の電源オン またはオフ、および削除ができます。

注: Cloud Hybrid には、選択したサイトで管理されている復旧ポイントから作成されたインスタント VM のみが表示されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- インスタント 仮想マシンの開始と停止
- インスタント 仮想 マシンの削除

インスタント仮想マシンの開始と停止

インスタント VM の作成時に、開始または停止できます。 VM のステータスに従って、開始ボタンまたは停止ボタンが表示されます。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid から、 [リソース]をクリックします。
- 2. [インフラストラクチャ]に移動し、[インスタント仮想マシン]をクリックします。
- 3. 目的の仮想マシンを中央ペインから選択し、「アクション」をクリックします。
- 4. 仮想マシンのステータスに従って、「パワーオン」または「パワーオフ」を選択します。 仮想マシンが正常に開始または停止されました。

インスタント 仮想マシンの削除

インスタント VM を削除できます。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid から、 [リソース]をクリックします。
- 2. 【インフラストラクチャ】に移動し、【インスタント仮想マシン】をクリックします。
- 3. 仮想マシンを中央ペインから選択し、「アクション」をクリックします。
- 削除]をクリックします。
 確認のダイアログボックスが表示されます。
- 5. **[DK**]をクリックします。 仮想マシンが正常に削除されました。

アシュアード リカバリを使用した Cloud Hybrid での惨 事復旧のテストの自動化

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- バックアップ データのアシュアード リカバリを実行 する方法
- (オプション) アシュアード リカバリテスト ジョブを手動で実行する方法

バックアップ データのアシュアード リカバリを実行する方 法

データのアクセシビリティとアシュアード リカバリを確認するには、アシュアード リカバリ プランを作成します。 アシュアード リカバリのプランは、 バックアップ/レプリケーション プランに基づいています。

以下の手順に従います。

- 1. Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインし、アシュ アードリカバリタスクを作成します。
- 「リソース]タブ 「ノード/すべてのノード]に移動し、アシュアードリカバリタス クのノードを選択して、バックアップパスワードを設定します。

 注:レプリケートされた復旧ポイントが確実に変換されるように、仮想スタン バイおよびリストアタスクのバックアップパスワードを設定する必要がありま す。指定されたバックアップパスワードは、オンプレミスソースノードをバック アップするのに使用されるプランで定義されているセッションパスワードと同じ です。
- 3. ノードを右クリックし、表示されたオプションから **[「ックアップ パスワードの設 定**]を選択します。

レード XXX のバックアップ パスワードの設定]ダイアログ ボックスが表示されます。

ノード w2019jesx1 のバッ	クアップ パスワードを話	定		\times	
1 つ以上のパックアップ暗号化パスワードを入力します。パスワードは、パックアップ セッションにアクセスするジョブで、セッションの復号化を試行する ために連続して使用されます。 注: いずれのパスワードも有効でない場合、パックアップ セッションにアクセスするジョブは失敗します。					
🕣 🚈 🛛 🍦 🕬 🕅 🕅					
パスワード	バスワードの確認	ገለንኮ	作成時刻		
	*****	***	2019/09/26 18:04:13		
		择符	±4261 \167		

- 4. バックアップ パスワードを追加し、 保存]をクリックします。
- 5. **[リソース**]タブで、 **プラン/すべてのプラン**]を選択します。
- レプリケーション プランを編集し、アシュアードリカバリタスクとしてタスク2を 追加します。

注:複数のバックアップパスワードを追加できます。

7. ソースを指定し、アシュアード リカバリ テストに必要な復旧ポイントの種類を 選択します。

注:最新の復旧ポイントのバックアップタイプを選択できます。

- 8. **Fスト設定**]タブに移動します。
- 9. Hyper-V の設定時に、 テストの種類]の タスク設定]を **インスタント 仮想** マシン]と指定し、Arcserve サポートから受信した Hyper-V IP アドレスを指定 します。

注: ゲートウェイ設定]オプションは Linux ノードにのみ適用可能です。ここでは、 **インスタント VM ゲートウェイで DHCP 設定を使用する**]チェック ボック スをオンにする必要 があります。

プランの変更	レプリケート (5DJ WJ MJ	0)	🔲 このプランを	一時停止			
タスク1: リモートで管理されている	タスクの種類 アシュアード	ሀታህናሀ ምスト					
タスケ2:仮想スタンパイ 🛛 🛇	ערע דג א	設定 スケジュール	拡張				
ቅスታን: ምንചም~ ዞሀታነባህ ምスト 🛛 🗢	サብኑ名 テスト ጶብን 🚺	ወ~ታክሀ サイト ® ተጋスタント VM 🛛 👔	 12,2,5,2,4 (反想ディスク . 🕐			
 タスクの追加 	አብነት-አናተታ	種類		Microsoft Hyper-V	•	1040	Ŧ₩
製品のインストール		サーバ		che-dr.anzbervell.com	Ť	16 <i>1</i> 11	更新
	プロキシ サーパ	Windows プロキシ サーパ	0	dhe-dit.aroserve1.com	~	追加	ታህፖ
		Linux プロキシ サーパ			-	追加	<u> </u>
		 グランに含まれる選択し パ、Linux ノードに Linu 	Jモノードの種類 × プロキシ サー/	に奉ういてプロキシサーハを選択し 「。詳細については、Arcserve ;	ます。 例: Window トレッジ センター	s ノーNE Windo を参照してくださ	ows フロキシ サー 5(1。
	ゲートウェイ設定	🗹 ተጋスタント VM ゲートウォ	I1で DHCP 設	定を使用する			
		IP アドレス					
		725					
		デフォルト ゲートウェイ					
		仮想ネットワーク		Private	Ŧ		
	·····································	VM 名プレフィックス		LIDPARVM			
		VM ファイル フォルダ 🛛 🥑		」 プロキシ サーバ (che-draiogail.arcserve1.com)) Ł		
				P.),VMStorage			参
		CPU 数		4 -			
		メモリ サイズ		512 MB 🕕	▶ 65534 MB	4096	MB(使用可能:
		ネットワーク設定		 ① インスタント VM とソース マシ 発生する可能性があります。 	しを同じネットワー	ウに接続すると、	ホスト名の競合が
				🖉 アシュアードリカバリ VM をネッ	トワークに接続	Arcsenve Pr	rivate_Cloud
				® アシュアードリカパリ ₩ (E DHC ◎ パッケアップ セッションからの TOF	沪設定を使用 シ/IP設定を使用		
		アダプタの種類		Network Adapter	-		

- 10. アシュアード リカバリ VM 設定、スケジュール、および拡張設定で、以下の 詳細を指定します。
 - a. アシュアード リカバリ VM に必要な適切な CPU 数とメモリを入力します。

注: 購入した Cloud Hybrid Compute サブスクリプションに基づいて、 CPU 数とメモリ割り当てを指定します。 b. Hyper-V サーバ上のアシュアード リカバリ VM のフォルダの場所を指定します。Hyper-V ディスクの場所について、以下のパスを指定する必要があります。

F:\VMStorage

- c. ネットワークを指定するには、「アダプタの種類」ドロップダウンリストから [ネットワークアダプタ]を、ネットワーク接続について [connect Assured Recovery VM to (アシュアードリカバリVM の接続先)]ドロップダウン リストから [Arcserve_Private_Cloud]選択します。
- 11. 保存]をクリックします。

変更が正常に保存され、アシュアードリカバリタスクが自動的に展開されます。 レプリケーション ジョブの後、アシュアードリカバリジョブが自動的に実行され、スケ ジュール設定を使用して制御されます。

詳細情報:

(オプション) アシュアード リカバリテスト ジョブを手動で実行する方法
アシュアード リカバリ テスト ジョブを手動で実行する方 法

Arcserve UDP では、スケジュールされたテストに加えて、ノードおよびプランのアシュアードリカバリテストの手動実行が可能です。

注:

- エージェント ベースおよびホスト ベースの Linux マシンで MSP レプリケーション タスクの後 にアシュアード リカバリ タスクが設 定 されると、アドホック アシュアー ド リカバリ ジョブがトリガに失敗し、例外が表示されます。ただし、スケ ジュールされたアシュアード リカバリ ジョブを手動で実行できます。
- MSP レプリケーション タスクの後 にアシュアード リカバリ タスクが設 定された場合、ホスト ベースのエージェントレス Linux マシンのスケジュールされたアドホック アシュアード リカバリ ジョブは、セッション パスワードが存在する場合にサポートされません。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- <u>ノードに対するアシュアードリカバリテストの手動実行</u>
- プランに対するアシュアードリカバリテストの手動実行

ノードに対するアシュアードリカバリテストの手動実行

重要: MSP レプリケーション タスクの後 にアシュアード リカバリ タスクが設 定された 場合、Linux マシンのスケジュールされたアドホック アシュアード リカバリ ジョブがサ ポートされません。

ノードに対してアシュアードリカバリテストを手動で実行できます。

以下の手順に従います。

- 1. Arcserve UDP コンソールから [リソース]タブをクリックします。
- 2. 左ペインから、[ノード]に移動し、「すべてのノード]をクリックします。
- 中央のペインから、アシュアードリカバリプランが割り当てられているノードを 選択し、「アクション」をクリックします。
- 表示されたオプションから、アシュアードリカバリテストを今すぐ実行]をクリックします。

[アシュアード リカバリ]ダイアログ ボックスが開きます。

5. アシュアード リカバリ タスクと復旧ポイントを選択し、 [OK]をクリックします。

ノードのアシュアードリカバリテストが正常に実行されました。

プランに対するアシュアード リカバリ テストの手動実行

プランに対してアシュアードリカバリテストを手動で実行できます。

以下の手順に従います。

- 1. Arcserve UDP コンソールから [リソース]タブをクリックします。
- 2. 左ペインから、 **プラン**]に移動し、 **すべてのプラン**]をクリックします。
- 中央のペインから、アシュアードリカバリプランが割り当てられているノードを 選択し、「アクション」をクリックします。
- 4. 表示されたオプションから、 アシュアード リカバリテストを今すぐ実行]をク リックします。

「アシュアードリカバリ」ダイアログボックスが開きます。

5. アシュアード リカバリ タスクと復旧ポイントを選択し、 [DK]をクリックします。

プランのアシュアードリカバリテストが正常に実行されました。

Cloud Hybrid の惨事復旧システムへの接続

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- 惨事復旧システムでネットワーク設定を使用する方法
- <u>惨事復旧システムのHyper-Vサーバに接続する方法</u>
- サイト間 VPN を使用して DRaaS インスタンスにアクセスする方法

惨事復旧システムでネットワーク設定を使用する方法

実行中の仮想マシンにアクセスして、スケジュールされた惨事復旧の一環として 使用します。または、これらのマシンを本番ネットワークの一部として使用する場 合、実行中の仮想マシンにアクセスします。

注: Cloud Hybrid に対してテスト ネットワーク設定オプションを使用するには、 Arcserve サポートにお問い合わせください。

ポイント対サイト VPN 設定を使用して、実行中の仮想マシンに接続します。

ポイント対サイト VPN 設定:

ポイント対サイト接続により、単一のクライアントマシンとCloud Hybrid の仮想プラ イベートデータセンターの間で安全な VPN (virtual private network、仮想プライ ベートネットワーク)接続が有効になります。このような接続を使用すると、喫茶 店にいるエンドユーザがクラウド内の復旧された環境に対して安全なプライベート 接続を確立できます。注:エンドユーザがオンプレミス環境で利用可能なシステ ムに対するアクセスも必要としている場合、個別の接続が必要であることに注意 することが重要です。オンプレミスシステムは、「ポイント対サイト」接続を使用して クラウド内の復旧されたシステムと通信することはできません。

以下の手順に従います。

- 1. リンクから OpenVPN クライアントをダウンロードしてインストールします。
- 2. オンボーディング プロセスの一環として受信した電子メールから、VPN 設定 ファイルとパスワードを取得します。
- 3. 以下のパスに VPN 設定ファイルのコンテンツをコピーします。

<c:\program files\openvpn\config>

- 4. OpenVPN コンソールを開き、トレイ アイコンを右 クリックして **接続**]をクリックします。
- 5. ログイン パスワードを入力してください。

IP アドレスは、192.168.x.242 ~ 192.168.x.254 の範囲で自動的に割り当て られます。サブネットマスクは 255.255.250.240 です。

注: 上記の IP アドレス範囲の x は、 クラウド インスタンスのパブリック IP アド レスの最終オクテットです。 パブリック IP アドレスを取得するには、 クラウド イ ンスタンスの FQDN (Fully Qualified Domain Name、 完全修飾ドメイン名) に ping を実行します。

惨事復旧システムの Hyper-V サーバに接続する方法

Arcserve UDP Cloud Hybrid では、Arcserve UDP サーバで利用可能な Hyper-V 役割が、レプリケートされたセッションの仮想スタンバイ、インスタント VM、およびアシュアード リカバリタスクを実行できます。ローカルシステムに Hyper-V マネージャを インストールし、ポイント対サイト VPN またはサイト対サイト VPN を使用して Cloud Hybrid で利用可能な Hyper-V サーバに接続し、復旧された仮想マシンを監視お よび管理できます。

注: Cloud Hybrid Hyper-V サーバには Windows 2016 OS が搭載されています。そのため、Windows 2016 または Windows 10 (Professional または Enterprise エディション) がインストールされているマシンを使用して、Cloud Hybrid Hyper-V サーバに接続します。

以下の手順に従います。

- 1. 管理者としてメモ帳を開きます。
- 2. C:\Windows\System32\drivers\etc\hostsを開き、以下の行を追加します。 <internal server ip> < ch*****.arcserve1.com >
- 3. クライアント マシンから、管理者として PowerShell を開きます。
- 4. インストールされているオペレーティング システムに基づいて、以下のコマンド を使用して Hyper-V 機能を追加します。

Windows 2016 の場合:

Add-WindowsFeature Hyper-V-Tools, Hyper-V-PowerShell

Windows 10 の場合:

Enable-WindowsOptionalFeature -Online -FeatureName "Microsoft-Hyper-V-Tools-All"

5. 以下のコマンドを使用して、Windows PowerShellのリモートを有効化します。

enable-psremoting

 以下のコマンドを使用して、クライアントまたはサーバマシンで CredSSP (Credential Security Support Provider)認証を有効化します。

enable-wsmancredssp -role client -delegatecomputer "ch*****.arcserve1.com

7. 以下のコマンドを使用して、Cloud Hybrid ユーザを追加します。

cmdkey /add:"< ch*****.arcserve1.com >" /user:clouduser /pass

- 8. プロンプトに従って、ウェルカム電子メールで受信した Cloud Hybrid ユーザの パスワードを入力します。
- 9. 以下のコマンドを使用して、Windows リモート管理を設定します。

winrm set winrm/config/client '@
{TrustedHosts="<hostname.arcserve1.com>"}'

10. 以下 のコマンドを使用して、 [*ローカル グループ ポリシー エディ*ター]タブを起動します。

Launch gpedit.msc

11. [コンピューターの構成]- 管理用テンプレート]- [システム]- 資格情報の 委任]に移動し、 [NTLM のみのサーバー認証で新しい資格情報の委任を 許可する]オプションをダブルクリックします。

NTLM のみのサーバー認証で新しい資格情報の委任を許可する]タブが表示されます。

- 12. 有効]オプションを選択します。
- 13. 「オプション」タブから 表示」をクリックします。
 表示するコンテンツ」タブが表示されます。
- 14. [値]タブに以下のコマンドを入力します。

wsman/< ch*****.arcserve1.com>

- 15. Hyper-V マネージャを開きます。
- 16. **別のユーザとして接続する**]チェックボックスをオンにし、以下の認証情報 を使用して、サーバ(ch*****.arcserve1.com)に接続します。

ユーザ名: < ch*****.arcserve1.com >\clouduser

パスワード: <クラウド ユーザ パスワード>

注: VM のデフォルトのLBS および VPN 設定は変更しないでください。

Cloud Hybrid で利用可能な VM が表示されます。

惨事復旧システムのHyper-Vサーバが正常に接続されました。

サイト間 VPN を使用して DRaaS インスタンスにアクセ スする方法

DRaaS サブスクリプションをお持ちのお客様は、自社のネットワークチームの助けを借りて、このフォームに記入し、Arcserve サポートに問い合わせてサイト間 VPN プロセスの設定を開始してください。

この手順を完了するには、ネットワーク管理者の支援が必要になる場合があります。

第4章:新しいまたは空の復旧ポイントサーバへのリ バースレプリケーションの手動設定

重要: データを Cloud Hybrid からオンプレミス RPS サーバにレプリケート する場合、 レプリケーション先としてソース データ ストアを選択しないでください。 データの破損 を回避するため、新しいまたは空のデータ ストアを使用することをお勧めします。

以下の表は、Cloud Hybrid での手動リバースレプリケーションシナリオを説明しています。

シナリオ	説明	手順
	Cloud Hybrid BaaS でオンプレミス サーバ、本番サーバ、	
シナリオ1	および RPS (Recovery Point Server、復旧ポイント サー	<u>リンク</u>
	バ) 上のデータが消えた場合。	
	Cloud Hybrid DRaaS でオンプレミス サーバ、本番サーバ、	
シナリオ2	および RPS (Recovery Point Server、復旧ポイント サー	<u>リンク</u>
	バ) 上のデータが消えた場合。	
	オンプレミス Arcserve UDP コンソールまたは RPS データス	
シナリオ3	トアでエラーまたはデータの破損が発生した場合。ただ	<u>リンク</u>
	し、オンプレミス本番サーバは適切に動作しています。	
	履歴 データを取得するには、ローカルオンプレミス RPS に	
シナリオ4	設定された保持期間が Cloud Hybrid RPS のものよりも	リンク
	短い場合。	

シナリオ1およびシナリオ2を使用して手動で設定す る方法

以下の手順に従います。

1. 新しいサーバを設定し、Arcserve UDP コンソールおよび RPS サーバをインストールします。

RPS サーバがパブリック ネット ワーク内 でアクセス可 能 であること、または NAT が設 定 されていることを確 認します。

注:

- Cloud Hybrid および RPS への接続を確立するのに役立つ Arcserve UDP コンソールおよびエージェント ポートはオープンであり、インターネットからアクセス可能です。
- デフォルト ポート: 8014/8015
- セキュリティを改善するため、HTTPS プロトコルを使用してインストール することをお勧めします。
- デデュプリケーション データ ストアを作 成し、パフォーマンスを改 善 するために デデュプリケーション ブロック サイズを 64KB に設 定します。

注: データストアには、同じレプリケーションノードを含めないでください。新 しいデータストアの作成をお勧めします。

3. ローカルの管理者以外のユーザと共有レプリケーション プランを作成します。

詳細については、リンクを参照してください。

- 4. Arcserve から受信した認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 5. リバース レプリケーションの実行、対応 するプランの変更、 **リモート管理の** RPS へのレプリケート]タスクの追加 が必要なノードを選択します。
- 6. **デスティネーション**]タブで、新しく展開した Arcserve UDP コンソールのアクセス情報を指定します。
- 7. **保存**]をクリックします。 プランが保存されます。

プランの変更	レブリケート (31D_1W_1M_1C)	□ このブランを一時停止	
タスク1:リモートで管理されている 🥏 RPS がらレプリケート	タスクの種類 リモートで管理されてい	NG RPS へのレプリケート ▼	
タスク2: リモートで管理されている RPS へのレプリケート	ソース デスティネーシ ョ	ン スケジュール 	
م 4750) فاس	リモート コンソール	10.10.255.255 -	追加
	ユーザ名	localuser	
製品のインストール	パスワード	•••••	
	ボート	8015	
	プロトコル プロキシの有効化:	Ohttp	
		接統	
	ブラン	リプリケート(7D_5W_12M_31C)	

- Cloud Hybrid で手動レプリケーション ジョブを実行します。
 詳細については、<u>リンク</u>を参照してください。
- 9. Arcserve UDP コンソールで、必要に応じて BMR、VM 復旧、IVM などのリストアジョブを実行します。

他のシナリオについては、このリンクをクリックしてください。

シナリオ3およびシナリオ4を使用して手動で設定する方法

以下の手順に従います。

Arcserve UDP コンソールおよび RPS サーバにログインします。
 RPS サーバがパブリック ネット ワーク内 でアクセス可能 であること、または NAT が設定 されていることを確認します。

注:

- Cloud Hybrid および RPS への接続を確立するのに役立つ Arcserve UDP コンソールおよびエージェント ポートはオープンであり、インターネットからアクセス可能です。
- デフォルト ポート: 8014/8015
- セキュリティを改善するため、HTTPS プロトコルを使用してインストール することをお勧めします。
- デデュプリケーション データ ストアを作 成し、パフォーマンスを改善するために デデュプリケーション ブロック サイズを 16KB に設 定します。

注: データストアには、同じレプリケーションノードを含めないでください。新 しいデータストアの作成をお勧めします。

3. ローカルの管理者以外のユーザと共有レプリケーション プランを作成します。

詳細については、リンクを参照してください。

- 4. Arcserve から受信した認証情報を使用して、Cloud Hybrid で利用可能な Arcserve UDP コンソールにログインします。
- 5. リバース レプリケーションの実行、対応 するプランの変更、 **リモート管理の** RPS へのレプリケート]タスクの追加 が必要なノードを選択します。
- 6. 「デスティネーション]タブで、新しく展開した Arcserve UDP コンソールのアクセス情報を指定します。
- 7. 保存]をクリックします。
 プランが保存されます。

プランの変更	レプリケート (310_1W_1M_1C)	□ このブランを一時停止	
タスク1:リモートで管理されている 📀 RPS がらレプリケート	タスクの種類 リモートで管理されてい	vる RPS へのレプリケート	
タスク2: リモートで管理されている RPS へのレプリケート	ソース デスティネーショ	ン スケジュール - ・	
 タスクの注意加 	リモート コンソール	10.10.255.255 -	追加
C STOTTALING	ユーザ名	localuser	
製品のインストール	אס-ד	•••••	
	ボート	8015	
	プロトコル プロキシの有効化:	Ohttp ®https □	
		接続	
	ブラン	リプリケート(7D_5W_12M_31C)	

- Cloud Hybrid で手動レプリケーション ジョブを実行します。
 詳細については、<u>リンク</u>を参照してください。
- 9. Arcserve UDP コンソールで、必要に応じて BMR、VM 復旧、IVM などのリストアジョブを実行します。

他のシナリオについては、このリンクをクリックしてください。